

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則

本大会は2026年度日本陸上競技連盟競技規則および本競技会申し合わせ事項により実施する。

なお、TR4.4（参加の拒否）、TR8.4/8.5（現場での抗議）は適用しない。

また、本大会はワールドランキングコンペティション（WRk）となる。そのため、TR4.3（同時申し込み）の国内適用はしない。

2. 競技者案内所（T I C）

競技者案内所（T I C）を競技場正面入口に置き、次の業務を行う。

- (1) 各種問い合わせ、審判長への抗議・上訴の受付、落とし物の取り扱いなど。
- (2) プログラム販売（1冊500円）。
- (3) 競技に持ち込んで使用する砲丸投以外の投てき物の受付と返却。

3. 受付

- (1) 競技者受付は各日7時30分からT I Cにて行う。
- (2) 受付の際には、プログラムを配布する。
- (3) プログラムの記載ミス（氏名、フリガナ、学年、所属等）については、大会プログラム記載事項訂正申請書プログラム訂正用紙（T I Cで受け取る。）を提出する。

4. 招集

- (1) 本競技会では、招集は第2ゲートで行う。
- (2) 招集の際、ユニフォーム、アスリートビブス、競技時に使用するシューズ、商標等のチェックをする。
- (3) 代理人による招集は認めない。
- (4) 招集所から競技場所への移動は係員の指示に従うこと。
- (5) トラックの横断は、すべて競技役員（競技者係・マーシャル等）の指示・誘導によって行い、細心の注意を払うこと。また、出場する選手以外は競技場に入らない。
- (6) 混成競技者は、1日目と2日目ともに混成競技者控室前で下記時刻に、混成係が行う。

種目	招集及び集合開始時刻	招集及び集合完了時刻
トラック競技	競技開始予定時刻の30分前	同20分前
フィールド競技	競技開始予定時刻の40分前	同30分前

5. アスリートビブス

- (1) アスリートビブスは、以下の通りとする。※安全ピンは各自持参
 - ① 長野県外登録競技者及び長野県登録で長野県外の大学生：主催者で割り振り、大会受付で配布
 - ② 長野県登録の一般競技者及び県内の大学生：JAAF ID 下4桁（アスリートビブス持参）
 - ③ 高校生：高体連登録番号（アスリートビブス持参）
 - ④ 中学生：中体連登録番号（アスリートビブス持参）
- (2) トラック競技者（オープンレーンに限る）は、腰ナンバー標識をパンツ右側の上部やや後ろにつけること。このカードは競技者係（第2ゲート）で受け取り、フィニッシュ後は返却する必要はない。更に5000m以上の競技者は、背にレーンナンバー標識をつけること。（胸は個人のアスリートビブス）ナンバー標識を受け取っただけでは招集完了とならないので注意すること。

6. 競技方法

- (1) トラック競技
 - ① レーン順はプログラム記載通りとする。
 - ② 短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
- (2) フィールド競技
 - ① 試技順はプログラム記載通りとする。
 - ② フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
 - ③ 跳躍種目及びやり投の競技者は、助走路の外側に主催者が用意した規定のマーカーを2個まで置くことができる。ただし、走高跳は競技者が準備したマーカーを助走路内に置くこととする。

- ④砲丸投・円盤投・ハンマー投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカーを 1 つだけ置くことができる。これらのその撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。
- ⑤投てきの全種目において、ピットでの練習は 1 回とする。
- ⑥走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、以下のとおりとする。ただし、天候等の状況により練習の高さを含め変更することもある。

＜十種・七種競技＞

種目	練習の高さ	1	2	3	4	5	6	
十種走高跳	任意の高さ	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	1m70	・・・以後3cmずつ
十種棒高跳	任意の高さ	2m40	2m60	2m80	3m00	3m20	3m40	・・・以後10cmずつ
七種走高跳	任意の高さ	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	・・・以後3cmずつ

＜オータムトライアル＞

種目	練習の高さ	1	2	3	4	5	6	
男子走高跳	任意の高さ	1m40	1m45	1m50	1m55	1m60	1m65	・・・以後3cmずつ
女子走高跳	任意の高さ	1m15	1m20	1m25	1m30	1m35	1m40	・・・以後3cmずつ
男子棒高跳	任意の高さ	2m00	2m20	2m40	2m60	2m80	3m00	・・・以後10cmずつ
女子棒高跳	任意の高さ	1m80	2m00	2m20	2m30	2m40	2m50	以後も10cmずつ

- ⑦十種競技の走高跳および棒高跳は、A、B の 2 つのピットで実施する。組分けは競技者の申請により決定し、試技順はプログラム記載の順番を原則とする。競技者は、走高跳は 1 日目、棒高跳は 2 日目の最初の招集時に、希望する最初の高さを申請すること。
- ⑧三段跳びの踏切板は男子 11m、女子 8m の位置に設置する。ただし天候などの状況によって変更する場合がある。
- ⑨100m、110mH、100mH については、競技開始 30 分前までに使用する走方向を発表する。
- ⑩十種競技のやり投の開始時刻は競技日程を基本とするが、棒高跳が終了した競技者でグループ編成し、時間差をつけて開始する場合がある。開始時刻は、各競技者の棒高跳終了時に連絡する。
- ⑪十種競技の最終種目 1500m は、9 種目終了時点の合計点の高い順にレーン内側から整列する。腰ナンバー標識も得点順に 1 からとする。
- ⑫七種競技の最終種目 800m の組分けとレーンについては 6 種目終了時点の合計点の高グループを最終組とし、合計点の高い順に 1 レーンから割り当てる。腰ナンバー標識はレーンナンバーと同じ数字を付ける。ただし競技者が 20 名以下の場合は組み分けしないで 1 組とする。
- ⑬投てき練習は、補助競技場で行う。練習を行う場合は審判の指示に従って行うこと。

(3) 混成競技の選手控え所

- ①競技者控室は、本競技場地下 1 階多目的室に用意し、競技者のみ入場を許可する。
- ②監督・コーチ等チーム関係者は、競技者控室および競技場 B1F への立ち入りは出来ない。コーチング等を受ける場合は、混成競技係の許可を得て、選手が移動する。
- ③更衣室横のシャワー室は、混成競技係に申し出て使用すること。ただし、1 日目競技終了後の使用は禁止する。更衣後の荷物は各自で管理すること。
- ④貴重品は各自で保管すること。万一の事故があっても主催者は責任を負わない。また、ごみの後始末は各自で行うこと。

(4) 抗議と上訴

競技会進行中に起きた競技者の行為、または順位に関する抗議は、正式結果が発表されてから 30 分以内に、その種目に出場した競技者自身または代理人が T I C まで申し出る。その抗議に対する審判長の裁定に納得ができない場合は、ジュリーに上訴することができる。その手続きは、「上訴申立書」を記入し預託金 (2 万円) を添え、T I C まで申し出ること。

(5) 助力

- ①競技者が競技場所を離れる場合は、競技役員に申し出なければならない。(コーチング、トイレ等)
- ②ビデオ装置、カセットレコーダー、ラジオ、CD、トランシーバーやスマートフォンもしくは類似の機器を競技場内に持ち込むことはできない。
- ③コーチ等からの助言は競技場区域外 (スタンド) のコーチングエリアのみとする。その際、撮影した機器を、提供する者のすぐ近くの位置で競技者が手に取って操作することは助力にならないが、映像確認後にコーチ等に再生機器を返さず、競技場所等へ持ち込む場合は助力とみなす。

7. 表彰

長野県選手権混成競技の表彰は、長野陸上競技協会登録競技者で各種目の最上位者に長野県選手権章、および各種目 8 位までの入賞者に、賞状を授与する。

8. その他

- (1) 棒高用ポールを除き、競技に使用する用具は原則として主催者が用意したものを使用しなければならない。ただし、投てき用具については、日本陸連検定品かつ WA 認定品に限り持ち込みを認める。持ち込みを希望する競技者は、招集完了時刻の 1 時間前までに T I C に持参し、返却も T I C で行う。検査に合格した用具は一括借り上げとし、参加競技者で共有できるものとする。
- (2) WA 認定品かどうかの証明は、本人がしなければならない。(認定シール又は WA サイト情報により)
- (3) スパイクピンの長さは 9mm 以内とし、走高跳・やり投は 12mm 以内とする。
- (4) 競技場に商品名のついた衣類、バッグを持ちこむ場合は日本陸連「競技会における広告および展示物に関する規程」に順守すること。
- (5) チーム待機エリアは正面 1 階コンコースとバック大屋上下とする。テントを設営する場合は重し等で固定すること。
- (6) 応援については、メインスタンド及びフィールド競技の進行の妨げとなる場所での集団応援はしない。
- (7) 横断幕及びのぼり旗などの応援布の設置はアルプススタンドフェンス、バックスタンド大屋上フェンス（スピーカー等を覆わない）のみとする。
- (8) スタンドからの撮影は、その選手の関係者のみ許可し、それ以外の撮影は認めない。望遠レンズ付きカメラでの撮影を認めない。また、撮影禁止エリア（フィニッシュライン後方スタンド・バック北側スタンド）での撮影は一切できない。
- (9) ウォームアップ場（補助競技場）への監督・コーチの入場は認める。ただし、雨天走路への入場は、混雑が予想されるので認めない。
- (10) 競技場所からの退場は、第 1 ゲートに設けたミックスゾーンを通り、階段を上って退場する。
- (11) 地震、台風、雷、荒天又は猛暑の場合は、大会を一時中断又は中止することがある。また競技順を入れ替える場合もある。このような場合も参加料の返金はできない。